

都市計画の歴史 1

Introduction-都市にとって歴史とは何か?-

0. 履修登録上の注意

- ・BC12831(「都市空間の歴史」、国際総合学類の学生)
- ・FH63081(社会工学類の学生)

※上記()内以外の学類の学生はどちらの科目番号で履修しても良い。

1. はじめに

対象: 古代から近・現代に至る都市・建築の通史

- ・日本の都市を中心に西洋・東洋の都市にも
- ・社会のあり方と各時代の都市の空間・技術(土木・建築・庭園)の対応に着目
- ・歴史的都市・建築の保全と活用にも

関連講義

「まちづくりと空間設計の歴史と思想」(藤川・松原、春学期Cモジュール月・木曜日 5・6時限) 2014年終了

2. 評価

- ・毎回の講義で提出するミニ・レポート 10 回分の評価=1/2(A~Dで採点)
- ・最終レポートの評価=1/2(A~Dで採点)

3. 最終レポート

・課題:

「近代以前(江戸時代まで)に成立した日本の町や村を1つ取り上げ、近世から近・現代への変容過程を空間に着目しつつ明らかにする。」

※1 必ず実際に現地を訪れて考察を加えること。

※2 考察の対象を一部の範囲に限っても良い。

※3 空間に着目するとは?

一般に歴史とは、政治・経済・社会の歴史を指すことが多いですが、ここでは道路・鉄道等のインフラの構成、各地区の街区構成、主要施設の配置等に着目して都市の歴史を理解することを意味します。

※4 土浦・水戸は取り上げてはならない。

・期限: 2013年1月6日(月) 17:00(システム情報等支援室レポート・ボックス)

・提出物: A4サイズ、分量(3,000字程度)、作業をした感想も含む

※1 自分で取った写真、古地図と現況を対照させたオリジナルな地図(①古地図に現況を自分で書き込んだもの、②現状の地図に古地図の情報を書き込んだもの、③上記①または②を自分で再構成して作図したもの、のどれかを意味します)、をもとに考察を加えるのが望ましい。印刷物内の写真、ネット上の写真はレポート評価の対象としません。ただし、古写真については評価の対象になります。

※2 利用した史・資料の出典を明記のこと。明記していないと、不正行為とみなされます。

※3 ネット情報の無断引用は”D”評価、または不正行為手続きの処置を取ることになるので、注意すること。

4. スケジュール

'13 10/11 INTRODUCTION

/18 古代の都市と建築

/23(水) 4・5限※注意 中世の都市と建築

/25 近世の都市と建築

11/ 1 海外の近世都市と建築

- /8 近世都市と建築の展開
- /15 前近代都市・建築の近代化
- /22 近代都市計画の成立と建築
- /29 (全学休業)
- 12/6 近代都市計画と建築の展開
- /13 歴史的環境の保存と活用

5. 都市史を学ぶ意義

- ①都市構造の継承性→都市計画策定のための基礎科学
今日の大都市(東京・政令指定都市)の出自、何時出来たか？
※ 歴史の捉え方:現代都市を拘束・規定する歴史、与条件としての歴史
- ②文化資産としての都市→都市保存・保全のための基礎科学
開発 VS 保存→街づくりの「一手法」へ、資産としての都市の歴史←地域の固有性
※ 歴史の捉え方:正の歴史(⇔負の歴史)の再評価
- ③新規都市建設から既存都市の持続的利用へ→都市の維持・再生のための基礎科学、保全型都市計画
新規建設のための都市工学から維持・再生のための都市工学へ、「花の建設、涙の保全」からの脱却
今後来る高齢化・経済の弱体化、地球環境問題との関係
※歴史の捉え方:歴史的に作られる都市環境＝終わりのない維持・補修対象→豊かな文化性

6. 都市史を研究対象とする分野

- ・人文科学：歴史地理学・歴史学・考古学
- ・自然科学（工学）：建築史学・土木史学・都市工学
- ・社会科学：社会学・政治学・経済学(マルクス)・社会心理学……
- ※「空間論」の人文・社会科学領域への衝撃 ※方法の共通化
↳ 事件が街の中のどこで起きているか、

7. 参考文献

- 社工にいた → 日端康雄 『都市計画の世界史』(講談社[現代新書]、2008)
西川幸治 『都市の思想』(上、日本放送出版協会[NHK ブックス]、1994)
- すくい本 → 高橋康夫他編『図集日本都市史』(東京大学出版会、1993)
都市史図集編集委員会編『都市史図集』(彰国社、1999)

8. 都市の成立と存立基盤

①都市の成立

- ・都市とは? :一定度の規模・密度で多数の人が暮らす大きな集落で非農業的要素が卓越する場
- ・成立過程に関するチャイルドの学説:

新石器革命(8000 BC 頃、農耕・牧畜の開始)→都市革命(3000 BC 頃)→産業革命(18 世紀)

文明社会の要件としての都市の定義

- ①規模(集住)、②居住者のタイプ(工人・商人・役人・神官・若干の農民)、③余剰を神や神聖君主に献上する生産者、④記念建造物、⑤手工業を免除された支配階級、⑥情報記録の体系(文字)、⑦純粹かつ実用的な科学技術の発展、⑧記念的芸術、⑨奢侈品や工業製品の原材料の定期的輸入、⑩世俗役人や神官の政治的・経済的支配下にある在留専門工人

- ・メソポタミアの都市・ウルク:3100BC 頃に文字成立?、約250haの規模、人口2万3000人~4万6000人?

②その後の都市と存立基盤

- ・存立基盤＝そこに都市が存在する根拠、あるいは主たる都市機能
- ・類型:政治都市・宗教都市・軍事都市・港湾都市・商業都市・鉱山都市・工業都市… 植民都市
→複数の都市機能が組み合わせられるのが一般的。